

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしきがいしゃえんげきしゅうだんえん		団体ウェブサイトURL
	株式会社演劇集団円		http://www.en21.co.jp
代表者職・氏名	代表取締役 谷川清美		
制作団体所在地	〒 181-0013	最寄り駅(バス停)	JR三鷹駅
	東京都三鷹市下連雀4-14-32 興信三和ビル2号		
電話番号	0422-29-8135		
ふりがな 公演団体名	えんげきしゅうだんえん		団体ウェブサイトURL
	演劇集団円		http://www.en21.co.jp
代表者職・氏名	代表 谷川清美		
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
	制作団体に同じ		
制作団体 設立年月	1975年8月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役谷川清美 取締役 橋爪功 石井英明 渡辺穰 桐戸英二 岡崎真理 監査入沢頼二	男優66名 女優80名 演出部31名 制作部4名。付 属俳優養成所の研究生から、研究所委員会の推薦 を得た者。その他二十人会(運営委員会)の承認を 得た者。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	桐戸英二
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	岡崎真理

本申請にかかる連絡先
(メールアドレス)

en@en21.co.jp

<p>制作団体沿革</p>	<p>演劇集団円は、所属メンバーそれぞれの能力を活かし充実した舞台創りを目指している劇団です。シェイクスピア、チャーホフなど海外の古典から、現代作家の書き下ろし作品まで幅広いレパートリーの上演には定評があり、所属俳優の橋爪功、高林由紀子・金田明夫はじめ所属メンバー全員が総力をあわせて舞台創りに取り組んでいます。</p> <p>俳優達は、映画やTVドラマ、声優と幅広い活動もおこなっています。</p> <p>また、故・岸田今日子の発案により1981年より「円・子どもステージ」を上演。谷川俊太郎、別役実、佐野洋子、きむらゆういちなどによる書き下ろし作品を創り続け、各種の賞にも選ばれています。</p> <p>1975年 芥川比呂志を中心に、現代演劇協会「雲」から独立。</p> <p>1976年 西武劇場(現PARCO劇場)にて旗揚げ公演「壊れた風景」(作別役実・演出高橋昌也)</p> <p>1981年 西新宿に稽古場兼劇場「新宿・ステージ円」を開場。中村伸郎が劇団代表に就任。</p> <p>1991年 仲谷昇が、劇団代表及び株式会社演劇集団円の代表取締役役に就任。</p> <p>2002年 浅草・田原町に事務所、養成所機能と稽古場兼劇場「浅草・ステージ円」を開場。</p> <p>2006年 橋爪功が劇団代表及び株式会社演劇集団円の代表取締役役に就任。</p> <p>2014年 「浅草・ステージ円」を閉鎖、新たな事務所、稽古場を三鷹市に設ける。現在に至る。</p> <p>※上演作品は紀伊國屋演劇賞、芸術祭賞、読売演劇大賞などの団体賞や個人賞を多く受賞。</p>					
<p>学校等における公演実績</p>	<p>小学校体育館においても、劇場での公演と変わらないクオリティーを維持しながら、学校公演でしかできない工夫を盛り込み、演劇の楽しさを知ってもらえる公演を続けています。</p> <p>地方公演として全国のおよこ劇場などでも積極的に公演を行っています。</p> <p>・「おばけリンゴ」作:谷川俊太郎 構成・演出:小森美巳 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 (実演芸術)」など30ステージを実施</p> <p>・「どんどこん-こどものためのことばラエティ-」 作:谷川俊太郎 演出:小森美巳、後藤彩乃 平成14年度から18年度文化庁「本物の舞台芸術体験事業」(学校公演)</p> <p>また慶応義塾幼稚舎 桐蔭学園小学校などの体育館公演など49ステージ実施</p> <p>・「あらしのよるに」作:きむらゆういち 演出:小森美巳 平成20年度文化庁「本物の舞台芸術体験事業」 桐蔭学園小学校公演など14ステージ実施</p> <p>・「ひゅーどろろ」作:谷川俊太郎 演出:小森美巳 成蹊小学校、慶応義塾幼稚舎、三鷹市内小学校の体育館公演 2012～2016年次代を担う子どもの文化育成事業(巡回公演)など107ステージ実施</p>					
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>「どんどこん」公演にて、通常公演に音や振動が出る楽器などを多様した編成に一部替えて実施。 島根県江津市立清和養護学校、栃木県立盲学校。</p>					
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>				
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/wy5XU6NJJ9Y</p>				
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:						
PW:						

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 演劇集団円】

対象	小学生(低学年)	○	/		
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	-			
企画名	おばけリンゴ				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>おばけリンゴ 作 谷川俊太郎 ヤーノシュの絵本「おばけリンゴ」(福音館書店)より 構成・演出 小森美巳 作詞 谷川俊太郎 作曲 小森昭宏 舞台監督 桐戸英二</p> <p>おばけりんごプログラム構成 1. 俳優たちの自己紹介 2. 本編の上演(ワークショップ参加児童との共演を含む)50分 3. 本編後の質疑応答など 公演時間に含まれません。</p> <p style="text-align: right;">公演時間 50 分</p>				
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり		該当コンテンツ名	劇中の使用曲に対する著作権
	該当事項がある場合	権利者名	小森音楽事務所 (JASRAC申請)	許諾確認状況	採択後手続き予定
演目概要	プロの俳優による演劇の公演です。ポーランド出身ドイツの国民的作家ヤーノシュの絵本「おばけリンゴ」を元に詩人の谷川俊太郎さんがオリジナルの舞台台本を作りました。無欲だった貧しい男ワルターが、ひとつの巨大なリンゴを手に入れたことにより、欲が生まれ大騒動に巻き込まれます。リンゴを失ったとき、ワルターははじめて欲張ることの無意味さを知ります。たくさんの登場人物をシーンごとに3人の俳優で演じ分け、生演奏と歌で彩った作品です。				
演目選択理由	谷川俊太郎さんが持つ日本語の造詣の深さが、豊かな言葉としてそのままセリフとなり俳優が演じます。主人公ワルターを惑わす巨大なおばけリンゴは、舞台美術などで登場させず、あえて無対象演技で俳優があたかもそこに存在するモノのようにいわゆるマイムで表現します。そうすることにより児童達は、「おばけの形をしたリンゴや黒いリンゴ、七色のリンゴ」など固定概念に囚われないリンゴを考え、想像力、発想力を発揮し観劇してくれることを期待した演出となっています。また音楽は、ギターとリコーダー、キーボードによる生演奏、効果音もすべて打楽器や民族楽器を使うことで、ライブ感のある舞台空間を生み出しています。谷川さんの言葉の力、子ども達の発想力、俳優によるライブ感が一体になった芸術鑑賞が期待されます。				
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップに参加した代表学年全員で、劇中に登場する村の人を演じてもらい、俳優と掛け合いながら共演していただきます。台詞は、ワークショップで出演児童が考えた言葉を発してもらいます。(ワークショップ時に俳優と共に考え、指導いたします) ・劇団が用意した衣裳を身に付けて演じていただきます。最後はカーテンコールで俳優と共に挨拶をして終わります。 ・また代表児童のみならず、全学年参加者全員で劇中に登場する歌「ひみつのうた」の合いの手を俳優の掛け声と共に客席より発していただきます。全員でひとつの劇空間を共有することを目標としています。 				
出演者	<ul style="list-style-type: none"> ・手塚祐介(てづかゆうすけ) 1981年 奈良県出身。兵庫県立ピッコロ劇団附属養成所、円・演劇研究所を経て、劇団員昇格。キャリア22年。小柄な身長を活かした配役が多い。商業演劇から小劇場の舞台まで幅広く活動。巡回公演経験者。2児の父。 ・玉置祐也(たまきゆうや) 1981年 愛媛県出身。舞台芸術学院、円・演劇研究所を経て、劇団員昇格。キャリア17年。幅広い演技力に定評があり、劇団公演ではシェイクスピアから現代劇までこなす実力がある。2児の父。 ・清水透湖(しみずとうこ) 1996年 神奈川県出身。桐朋学園短期大学演劇専攻、円・演劇研究所を経て、劇団員昇格。キャリア7年。俳優としての大胆な表現力で様々な公演で活動。 				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含	出演者:	3 名	運搬	積載量:	1 t ハイエースクラス
	スタッフ:	1 名		車長:	4.5 m

む

合計: 4 名

台数: 1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8:20	8:30~10:00 (ws10:00~11:30)	13:30~14:20	なし	14:30~15:15	15時30分

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	10日	10日	0日	10日	0日	
	11月	12月	1月	計	40日	
	0日	10日	0日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	10~15名 (ひと学年が理想複式学級可)
		鑑賞人数目安	~150名



舞台を設置した状態です。10m×10mを使用します。(体育館の規模に応じて調整します)
体育館併設の舞台上は楽屋として使用します。緞帳があれば使用します。
学校の状況に合わせて柔軟に対応できます。観劇は舞台を囲むように観てもらいます。

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)



演出①

大きく実ったリンゴをもぎ取ろうとする主人公。リンゴは舞台美術として登場せず無対象で俳優が演じます。



演出②

児童との共演シーン。
大きなリンゴを市場に売りに来た主人公にいろいろと質問をする。児童たちにもリンゴがあたかもそこにあるように演じてもらいます。
(ワークショップで指導いたします)



演出③

共演する児童には劇団が用意した帽子やマントなど衣裳を身に付けて演じてもらいます。

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【公演団体名 演劇集団円】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10～15名
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>実施時間 90分(休憩含む) 内容は代表となる1学年(10～15名)を想定しています。ワークショップ参加者は、本番で俳優と共演します。小規模校では複式学級での参加も可能です。学校側の状況を鑑みて相談の上決定いたします。</p> <p>前半30分程 ①俳優(指導者・補助者)と参加児童との信頼関係を作る為のコミュニケーションに取り組みます。 自己紹介からはじまります。俳優という仕事や 俳優個人を知ってもらいます。 ②次は少しずつ身体を動かしながら、後半に備えたウォーミングアップです。 俳優が普段稽古でおこなっているシアターゲームを行いません。 ・ミラーアクション／鏡写しとなって俳優と同じ動きを真似て、段々と動作を複雑していきます。 実際に目で見てのことと、同時に手順を記憶する作業を通して、相手を観察することを学習します。 ・身体全身を使った発声／俳優が実際に行っているお腹から声を出す複式方法を体験します。 ・マイムの経験(図1)／バスケットボールなどを無対象で、実際にあるかのように表現します。 俳優が大きさや重さを問いかげながら、見えない物体があるかのように扱い参加者同士で想像力を構築していきます。</p> <p>後半60分程 作品の内容を踏まえたうえで、本番で共演するシーンを具体的に作っていきます。 児童が演じるセリフを自分たちで考えます。 ③作品の説明。(図2) ただ作品を説明するのではなく、クイズや選択形式など児童の興味を促す方法で取り組みます。 原作絵本をパネル化したものを使って、物語の解説をいたします。 その際、一部を実演いたします。(2～3分) ④作品の内容を踏まえたうえで、本番で共演するシーンの説明を改めて具体的にいたします。 児童に対して、登場人物の気持ちを問いかげながら、一緒にオリジナルのセリフを考えていきます。 考えるセリフはベースとなるキーワードを用意しています。 それに則り、まずは自由に言いたいセリフを考えてもらいホワイトボードに書き出していきながら、前後のセリフとつじつまが合い、会話が成立するよう全員で整えていきます。 その際、全員がかみならずセリフを言えるように導きます。 最後は完成したセリフを声に出して確認、練習し本番に備えます。</p>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>本番時に出演する俳優、スタッフが指導者・補助者で参加することで、児童との「信頼関係」を育み、本番時には安心して共演出来るように務めています。 大切なのは、「集中力」や「観察力」、「記憶力」、「協働」など演劇表現に必要なことをワークショップを通して学び、自分自身のなかにある興味を発見してもらうことです。 前半のシアターゲームはただの遊びではなく、ワークショップ後半で取り組む「セリフ作り」に活かされるよう組み立てています。 演劇はただ観るだけのものではなく、セリフ作りなどを通して、創る面白さ、演じる楽しさもあることを伝えられればと考えています。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図1 マイムを使った ゲームで共演時の演技の向上に努めています。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図2 作品説明 原作絵本を使い、 作品イメージの解説</p> </div> </div>		

本事業への申請理由

【公演団体名

演劇集団円

】

①本事業に対する取り組み姿勢

日本中の子ども達に生の演劇を観る機会を創ろうと、いつの時代も国、地方公共団体そして私たち創造団体も知恵を出し合ってきました。各地での演劇鑑賞は、日常をはなれて演劇にふれる貴重な機会だと考えます。

児童も参加するというこの事業は、総合芸術である演劇を通し、演劇がいかに多くの人々の力により成立しているかを学ぶ場を作りたいと考えています。稽古を重ねてきた俳優たち、それを支えるスタッフが、同じ重さの責任を持ち、それを果たすことによつてのみ舞台は成立することを伝えることができればと思います。

舞台を創り上げる精神を学校の現場に、いかに届けるか。

大きな劇場で遠くの舞台を観るのではなく、生活の一部である学校の体育館で実現させるこの事業は、子ども達の心を捉え観劇の感動をさらに大きくできると考えています。

私たちは、実施校と協働し児童とひとつの作品を創り上げる醍醐味を共有しようと考えます。

ワークショップから鑑賞会という段階を踏むことで、俳優と児童との信頼関係が生まれ、俳優個人への興味から舞台芸術への関心が増し、いままで感じえなかった鑑賞力、そして自信を持って伝える発進力も培われる機会とし、1日だけの鑑賞教室ではなく、子ども達の成長にとって実りある事業にしたいと思っています。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫**先生方への工夫**

上記に記したように、共に創る、参加することで演劇を身近なものにしたいと考えています。

それには実施校と私たち公演団体のこの事業に対する認識の共有を確認する事が大切です。実施校の担当者、劇団側の専任担当者と綿密に連絡を取り合い、学校それぞれの事情や芸術鑑賞の取り組みをヒアリングさせていただきます。

実施校それぞれの事情も考慮し、そのニーズに応えられるよう柔軟な対応を致します。

専任の担当者を配置して、公演当日も随行しますので、学校側との事前のやり取りに齟齬がないよう実施体制を整えています。

ワークショップについては、事前にアンケートをとり、実施時間を調整致します。スムーズに本公演の日を迎えられるようワークショップ時に打ち合わせは綿密にいたします。その後、お話しした内容は写真資料などを加えて明文化し、担当教員だけでなく実施校の教職員全員に周知していただけるよう工夫します。

児童への工夫

図書室に原作絵本があれば、事前に読めるように掲示をお願いしています。また舞台台本や作品資料として「おばけリングってどんなお話？」という舞台写真や原作画を盛り込んだポスターを作り、実施校に配布し掲示していただくことで作品への期待を高める工夫をします。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名

演劇集団円

】

① 離島・へき地等における公演実績

離島公演

東京都御蔵島、愛媛県生名島、鹿児島県種子島、沖永良部島など。

へき地公演

勝浦市立豊浜小学校、木更津市立東清小学校、甲州市立神金小学校、つくばみらい市立十和小学校ほか町立、村立小学校など小規模校での過去実施あり。

② 特殊な事情がある地域で実施する上での工夫、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫

◆ 離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫

元々は大型舞台劇として創作した舞台ですが、少人数編成にすることで実施校の環境や要望に合わせた、柔軟な取り組み、即実対応が現場でも可能です。

ひとりで数役をこなす演出をしていることで、むしろ演劇としてのライブ感が作品の質を向上させています。

大道具や小道具を小学校公演用に改良しているため、仕込時間の短縮、移動や運搬等の悪条件を解消できます。トラックではなく、小回りの利くハイエースクラスの車に積み込みができるため、高台にある導線が急傾斜の学校や狭い道路への運搬も問題なく行えます。

離島運搬に備えて、経済寸法のコンテナで運べるようにしています。

◆ 小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫

大型舞台劇版で使用していた道具類、衣裳も活かし、作品の魅力を維持しています。小規模校での公演に経験豊富な俳優、スタッフを入れていますので、柔軟な対応が可能です。

ワークショップも、参加児童ひとりひとりと対話ができるプログラムを組んでいるため、人数の多い学校とは違う密度の濃いワークショップの実施が可能です。

これは俳優と児童の信頼関係を構築する重要な要素と考えています。

③ C区分申請における、小規模な公演の観点から実施する経費削減等についての工夫

実演者の移動と運搬を1台(ハイエース等)にして、移動費と運搬経費の削減をしています。

舞台大道具は、小さく分解できるように改修、コンパクトに効率よく設営撤収できるようにしてあり、舞台スタッフ人件費が掛からないよう削減しています。

照明は最小限の機材を使用して自然光も活かした鑑賞ができるようにし、音響設備は使用せず、俳優の生演奏を活かした演出にすることで、機材を使った音源を使用せず機材費用の削減を行なっています。

離島での公演の場合は、移動経費が高額になりますので、ワークショップと本公演を同日日程もしくは連続した日程で開催することで経費削減をした実績があります。

C区分で事業を
実施するに当たっての
工夫